

津市総合計画オープンディスカッションにおける意見の概要

1. 美しい環境と共生するまちづくり

施策体系	意見内容
1-1 循環型社会の形成	○新しいエネルギーと言われているが、太陽光にしても、火力、水力にしても石炭・石油がたくさんいる。原子力はない方が良いが、今ある以上、早急に一番の問題として残留物の処理を考えてほしい。
	○（環境と共生するまちづくりなどで）記載されている意見は全て重要なことであり、これらを実現していくために、企業、市民、大学、行政の役割を明確に進めてもらいたい。
	○津市にとって人材を育成することが環境のこのみならず、文化、安全・安心などにも重要である。
1-2 次世代に残す自然環境の保全・創造	○山の木に広葉樹を植えてほしい。花粉症に苦しんでいるという理由もある。
	○津市は自然や歴史が豊かであり、若者に楽しんでほしい。
	○津市に自然などの良い場所があっても学生が知らない。PRを工夫してほしい。
1-3 快適な生活空間の形成	○本町の市有地の緑地帯を活用してほしい。
1-4 生活基盤の整備	○津新町から中心市街地に向かう国道 23 号の歩道橋をコンペで整備する。注目が集まり、PR効果が期待できる。
	○下水工事が進んでないため、トイレが水洗化できない。下水工事を進めてほしい。

2. 安全で安心して暮らせるまちづくり

施策体系	意見内容
2-1 安全なまちづくりの推進	○南海トラフ地震や集中豪雨に備え、山間部や丘陵部における土砂崩れに備える必要がある。
	○南海トラフ地震に伴う津波に備え、海岸地域から丘陵部に向かう避難路を整備するべきである。
	○被災時に行政サービスが機能するよう、市役所の事業継続計画（BCP）を整備する必要がある。
	○「釜石の奇跡」の様に、各人があらゆる災害対策を自主的に行い、備えを万全にして努力しながら充実させるべきである。
	○河芸の千里地区に三重大大学の学生寮を誘致するとともに、近くの鈴鹿国際大学、鈴鹿短期大学の学生なども集まる学生のまちにしてはどうか。それにより、災害時の安全性が高まるとともに、付近の住民との世代間交流も期待できる。
	○津市は沿岸部が長いので、その災害対策やそのためのまちづくり、災害後のまちづくりについて具体的に明確にしてほしい。安全・安心して生活できるようにすることが重要である。
	○中心部の河川整備がまだ進んでいない。先日の台風の時も、もう少しで河川があふれるところであった。
	○中心部の河口には、浸水に備えた高い建物が無い。

<p>2-2 健康づくりの推進と地域医療体制</p>	<p>○安心して暮らし続けられるよう、産婦人科の体制を整えることが望まれる。</p> <p>○広くなった市域の緊急医療を支えるため、ドクターヘリの導入を検討してはどうか。</p> <p>○充実した暮らしをするためには、楽しむことが基本であり、健康が前提である。地域に参加し、生き生きと活動することが健康づくりにつながり、地域づくりにつながる。</p> <p>○健康づくりを推進するため、津市の健康づくり体操を創作してはどうか。</p> <p>○高齢者や障がい者、生活保護を受けている方などすべての市民が社会参加できるよう、趣味やスポーツの施設及びプログラムを整備し、津市全体の元気づくりを推進する必要がある。</p>
<p>2-3 地域福祉社会の形成</p>	<p>○自分の自治会では、孤独死が数件あったことから、高齢者を対象としたサロンの開設や見守りの体制づくりを進めてきた。また、今年度から新たに週2回程度、いこいの場づくりを行っている。こういった取組を全市的に推進すべきである。</p> <p>○コミュニティが機能するようにする一方、津まつりの企画・運営を担っているボランティアのネットワークなどを活かして、全国的な連携を深め、いざという時に助け合える仕組みを育てることが大切である。</p> <p>○総合計画のなかで「支え合い」という言葉が使われているが、実際には、高齢者や障がい者は支えられる側に偏っている。真の支えあいを実現するため、先進的な支え合いの事例などを周知することが必要ではないか。</p> <p>○支え合いの社会づくりを進めるためには、各個人がしっかり自立していることが重要である。</p> <p>○隣近所のつながりは希薄化し、自治会や老人会などでは、役員の高齢化、若い方の関心低下などがあり、地域組織が弱体化している。市民の地域活動を下支えするため、行政には、職員の養成や中間支援組織の創設・支援などを期待する。</p> <p>○つながりのある社会をつくるため、人や団体の間をコーディネートする人材（コミュニティソーシャルワーカー（社会福祉士や社会福祉主事任用資格など福祉の専門資格を持ち、地域に住む方々の福祉活動を側面からお手伝いする専門職）、ボランティアコーディネーター（ボランティア活動のプロセスで多様な人や組織が相互に対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整する人材など）が求められる。</p> <p>○未婚の方が増えている。地域社会において、結婚率の低下は高齢化や少子化につながるとともに、地域のつながりの希薄化にも関連するので、対策が必要ではないか。</p> <p>○婦人会もなくなるなど、地域の絆がなくなってきており、安全・安心な生活面で不安である。婦人会などの復活が必要である。</p>

3. 豊かな文化と心を育むまちづくり

施策体系	意見内容
3-1 生きる力を育む教育の 推進	<p>○将来を展望したふるさとづくりに向けて、学校、地域、社会の連携を充実させ、幼・小・中・高校などの若い世代の人たちが家庭人、地域人、社会人として活動できる場づくりに取り組むことが必要である。</p> <p>○将来を担う子どもの原風景をつくり、将来の人生に貢献できる力を引き出すため、県立博物館や美術館などの地域にある施設に授業や学校行事で行くなど、地域資源を学校教育で活用し、情操教育に役立ててほしい。</p> <p>○学校教育、地域の教育力をもっと発掘し、それを教育現場で活用してほしい。</p> <p>○学校で取り組まれていることとは思うが、もっと幅の広い範囲で教育を捉え、地域にいる適切な人材を学校教育目標に沿って考えてもらえればと思う。</p> <p>○授業参観の様な物理的な学校開放だけではなく、課題や問題も学校開放していくことが必要である。国の実施する学力テストの長所、短所を明らかにし、長所をのばし、欠点を克服する方策なども、地域の議論の一つとして一緒に取り組んではどうか。本当の意味での学校開放を行ってほしい。</p> <p>○学力、運動能力も重要であるが、津の子どもがしっかりとした道徳観を持った子どもに育つよう、知識の充実を図ると同時に、小学校での道徳教育、歴史教育の充実、心の教育を強化してはどうか。</p> <p>○いじめなどで、不登校になる子どもが出ないように、悩みを相談できる場所や環境づくりなど、子どもの声に耳を傾ける仕組み・人材の充実が必要である。</p> <p>○通学路の整備、安全確保について、地域からだけではなく先生からも要望するなど、先生の学校外のことに対する関心が高まると良い。学校外でのことについて、先生の関心が薄いのではないかと思う。</p> <p>○学校は、校内整備だけに留まらず、通学路など環境全般にわたり自治会任せを改め直接関与してほしい。</p>
3-2 高等教育機関との連携	<p>○三重大学生は、地元で就職してほしい。</p> <p>○連携ができるところは、積極的にやるべきだ。</p> <p>○取組に学校差や地域差が見られる。</p>
3-3 生涯学習スポーツ社会 の実現	<p>○高齢者がどんどん増えているが、まずはその方々がずっと元気でいて欲しいと思う。</p> <p>○健康な高齢者の有効活用が、伝統芸能の継承や自治会活動など地域の活性化につながると考える。</p> <p>○そのために、公園など、無料で、すぐに使えて、気軽にできる場所に遊具などを設置して、運動不足の大人に使ってもらってはどうか。</p> <p>○そのときに、公園などで遊ぶ子ども達にも目を向けてもらえれば、防犯の面からも一石二鳥である。</p> <p>○生涯教育、スポーツ、文化講座、ボランティアガイドなどの</p>

	<p>メニューを回数、内容ともに充実させる。</p> <p>○各種講座やイベントが開催されていてもみんな知らないことが多いので、民間が主催するイベントなども含めて、PRを充実させる必要がある。</p>
1-3 快適な生活空間の形成	<p>○現在の体育館が移転する跡地を活用してほしい。中央公民館、福祉センターの複合施設と防災避難所（堅牢な建物）をつくる。体育館近くには避難所がない。</p> <p>○人材を育成することが津市の急務であり、中央公民館はその役割を果たす。そこに集まる人や、福祉センターに高齢者を中心に幼児も集まれば、賑やかになる。</p>
3-4 文化の振興	<p>○「3-1 生きる力を育む教育の推進」を進めることによって、学校と地域と家庭と連携した地域学習が充実し、そのことが地域文化の振興につながると良い。</p> <p>○地域の文化は地域で守りたい、少子化や後継者不足、大人と子供の接点が減るなど、現状では消えていくものが多く心配である。</p>
3-5 人権尊重社会の形成	<p>○講演会等、人権に関するイベントがあっても参加者が非常に少ない。おそらく住民の中での重要度や関心が低いと思う。</p> <p>○イベント的な単発のものではなく、人権週間以外にも身近なところ（自治会の会議や公民館など）で日常的に啓発していく必要がある。</p> <p>○人権とは何か、を学ぶ機会が少ない。</p> <p>○人権問題等は、小学校など子どもの頃から教えてもらえれば大人になっても関心を持ってもらえるのではないかと思う。</p>

4. 活力のあるまちづくり

施策体系	意見内容
4-1 自立的な地域経済の振興	<p>○農業、林業は、高齢化が進み人手不足に陥っている。</p> <p>○学校教育の中で、地域の農業、林業について学び・体験する機会を増やして、将来の地域を担う人材を育成する必要がある。</p> <p>○学校統合が進み、地域に密着した教育ができないために、地域の人材が育たずに、地域の活力がますます低下することが心配である。</p> <p>○働く場が無ければ、教育の力だけでは若者は定住しない。</p> <p>○外からの移住を希望する人もあり、外部の人材を流入させることも必要である。</p> <p>○中心部の商店街活性化のために、大学生などの若者の力を活用しようと取り組んでいるが、今の商店街の現状から、商店街に若者が来るのか疑問である。</p> <p>○むしろ高齢者や津観音に来る観光客をターゲットにした方が効果的ではないか。</p> <p>○津まつりを活性化することによって、商店街の活性化につなげられないか。</p> <p>○例えば、旧津市だけではなく合併市町にもイベント会場を設けたり、合併市町のイベントも津まつりの一つとして位置づ</p>

	<p>けたり、日常的なイベント（朝市）を開催しつつ、年に1度目玉として巨大津まつりをするなど。</p> <p>○目玉になるイベントには、津ならではのメニューの開発が必要である。例えば、津ならではのルールをつくり、津では老若男女が生涯スポーツとしてレスリングをしているなど。</p>
4-2 交流機能の向上	<p>○津ICを活用して活力あるまちづくりを進めるためには、市街地の拡大が重要になる。しかし、現状では土地利用規制がネックとなって、一向に進展しない。IC周辺のまちづくりを進めるためには、住民の力だけでは限界があり、行政の強力なリーダーシップのもとで、開発整備ができる条件を整えてもらいたい。</p> <p>○津ICは津波の心配はないために、防災面でも優れた条件にある。津波対策の一環で高台の市街地としてICを整備する意味はある。</p> <p>○ICに総合体育館“サオリーナ”の整備が予定されているが、大勢の選手・観客が来ても飲食施設などのサービス施設が無いために、現状では満足してもらえない。</p> <p>○“サオリーナ”周辺に関連商業サービス施設などを整備するまちづくりを進める必要がある。</p> <p>○津なぎさまちから都心までの県道42号を軸として安東地区の整備開発を進め、商業モールなどの立地を図る必要がある。</p> <p>○IC地区に商業施設の整備を進めることは、災害時の食糧ストックとして活用できる。また、大型店が立地すれば雇用の創出効果も期待できる。</p> <p>○久居ICには商業施設の立地も進んでおり、ICが効果的に活用されている。</p> <p>○“サオリーナ”は施設の規模に見合う利用があるのか疑問である。今のままでは投資の大きさの割に効果が期待できない危険性もある。</p> <p>○“サオリーナ”の利用方策を工夫する必要がある。</p> <p>○津IC周辺の開発が遅い。進めるつもりがあるのかどうか知りたい。</p> <p>○津IC周辺の開発を進める時には、住民参画で進めてほしい。開発に住民の意見も盛り込んでほしい。</p>
4-3 観光の振興	<p>○津観音は日本三観音に数えられるにもかかわらず、知名度が低い。</p> <p>○PR不足が一番の問題である。津市の目玉となるようなPRを展開する必要がある。</p> <p>○津市内には、特有の地域資源が多数あるにもかかわらず、観光資源として十分活かされていない。</p> <p>○様々な観光パフレットの作成やHPでの情報提供など、可能なPRはいろいろと実施している。PRしてもその効果が現れていないのが問題である。</p> <p>○その原因は、市民自身が地域の観光資源に魅力を知らないことである。市民の思い入れがあれば、市民一人一人から情報が発信され、PR効果も高まる。</p>

	<p>○そのためにも、市民が地域の観光資源をもっと知る必要がある。</p> <p>○地域の資源について市民の理解を深めるために、今年から「津ふるさと学検定」を始めた。この取組が発展すれば、市民の思い入れも強まり、PR効果も高くなることが期待される。</p> <p>○観光PRは、繰り返し継続的に行うことが重要である。</p>
	<p>○清少納言ゆかりの温泉でもある榊原温泉を活かすにはストーリー性のあるPRが重要である。</p> <p>○榊原温泉に来て、その周囲には楽しめる時間を過ごす場所が無い。楽しさを味わうことができる関連施設を整備する必要がある。</p>
	<p>○高田本山、北畠氏館跡などの貴重な歴史・文化資源を活かすためには、資源にマッチした景観を整備する必要がある。</p> <p>○利用者の少ないコミュニティバスを観光客の移動手段として活用できないか。</p>
4-3 観光の振興	<p>○遠くからでも認識できて、年齢、国籍に関係なく誰でも時間を把握できる「色で分かる時計」を開発して津市をPRしたい。</p>
	<p>○津市には23か所のゴルフ場があるが、そういった地域資源を活かし、1万人ゴルフ大会を開催するなど津市をPRしていく必要がある。</p>

5. 参加と協働のまちづくり

施策体系	意見内容
5-1 市民活動の促進	<p>○震災などにより年代に「絆」などと言われているが、年代に関係なく、市民の助け合い文化をつくっていく必要がある。</p> <p>○生活の困りごとを把握するのも、井戸端会議のような常日頃行われているところでニーズが聞けて、そこで解決できることが望ましい。</p>
	<p>○団塊の世代は人材が豊富だが、そこを地域でうまく活用できていない。団塊の世代を市民活動などに取り込んでいく仕組みが必要である。</p>
	<p>○市民の男女共同参画に対する意識が低いため、重点プログラムに取り上げて、積極的に推進していく必要がある。</p> <p>○市民レベルで啓発していく方法を考えなければならない。</p>
	<p>○災害時に備えるために、平時から助け合いを行っていく必要があるが、そこをまとめるリーダーが不足しているため、リーダーの育成が必要である。</p>
	<p>○地域活動などにおいて、「昔がよかった」というが、昔に戻ろうとする意識がないため、もう一度昔を振り返って、現状を考える必要がある。</p>
	<p>○助けてくれといえる社会が必要であるが、民生委員でさえ担い手がいない状況で、本当に助けてくれるのか疑問なところもある。そのため、互いの心に鍵のかけないまちづくりを進めていく必要がある。</p>
	<p>○協働を進めるには協働の土台となるプレイヤーを大勢育成</p>

	<p>し、その中からリーダーを育成していくことが必要である。</p> <p>○そのためには、一方的な講演会などではなく、女性も参加できる話し合いの場を設けて、ワークを通して共有できることが大切である。</p> <p>○女性をはじめ、さまざまな年代の人が参加するためには、企業の理解が必要である。</p> <p>○協働のプレイヤーを育成するためには、魅力ある集い、話し合いの場が必要である。</p> <p>○魅力ある集いには、ただ楽しめるだけではなく、作業を通じた努力が必要である。</p> <p>○特色ある重点施策を推進するトップダウンで決めて、人・物・金を割り付ける必要がある。</p> <p>○また、そのためには「まちづくりの目標」を明確に示さなければならない。</p>
5-2 市民との協働の推進	<p>○市民協働は、久しく宣言されているが、いかに市民の理解が進んでいるのか、また、市民協働が本当に行われているのかが分からない。</p> <p>○市民協働の実態を確認してから、協働の仕組みを考えていく必要がある。</p> <p>○住民が津市や地域に関心を持つような取組が必要である。</p> <p>○そのためには、具体的に何を誰が進めるのか、役割を明確化してから、実際に協働を進めるプレイヤー（担い手）を育成していく必要がある。</p> <p>○重点プロジェクトとして、10の地域で、その地域ならではのプロジェクトを決めるのはどうか。</p> <p>○地域間で競争していくことで、取組が活性化するとともに、互いの取組を共有でき、他の地域の良いところを水平展開することができる。</p> <p>○総合支所は、職員が減らされ、財源もなく、権限もないなど、機能が低下している。住民に密着したまちづくりを進めるためには、総合支所の活力を強化することが不可欠である。</p>

◆その他

項目	意見内容
総合計画の内容について	○市民、行政、企業の役割を明確にして、計画づくりは積み上げて進めてほしい。
	○計画づくりにおいては、多世代の意見を聞き、次の世代の育成を考えるべきである。
	○計画づくりにおいては人づくり、人材育成を考えるべきである。
	○5年先、10年先をきちんと見て、次の世代が安心・安全に暮らせるようにしてほしい。
	○今回のオープンディスカッション5チームの中から取組を選んで、それについて市長と懇談会を設けるなど、話し合いだけではなく、そこで話し合われた意見がどうなっているのか、

	<p>その反映方法を考えなければならない。 ○話し合いから、次のステップを用意しておく必要がある。</p>
--	---